



### ～3年間のマスク生活～

3月13日以降、マスク着用は個人の主体的な選択を尊重して、「着用は個人の判断にゆだねる」こととなりました。マスク着用が効果的な場面について、

○医療機関を受診するとき

○重症化リスクの高い人が多い医療機関や高齢者施設などを訪問するとき

○通勤ラッシュ時など混雑した電車やバスに乗車するとき、の3つの場面だとし、そのほか感染症の流行期に重症化リスクの高い人が混雑した場所に行くときについては、自分を守るための対策としてマスク着用が効果的としています。また子どもについては、健やかな発育・発達の妨げとならないように配慮することが重要とのこと。



今やほぼ2人にひとりが花粉症といわれているので、春先まではマスクを着用している人が多いかもしれませんね。それでもマスク着用と非着用が入り混じる生活が始まり、社会の風景が少しずつ変化していくことでしょう。昨年佐賀県の医師がマスク非着用の中学生に激高し、学校に出向いて怒鳴ったり机を蹴ったりして職を解かれた事件がありました。小説家の菊池寛さんは『マスク』という短編小説の中で「誰もマスクをかけていないときに、マスクをかけているのは…中略…臆病ではなく勇気だと思うよ」と書いています。個人の判断にゆだねられた今、それぞれの考えを尊重し、なお油断することなく、マスクを着用している人のマスクの中も、マスクをはずす人の口元も、どちらも口角があがる明るい日々を送りましょう。



別れと出会いと出発と…



先月21日に上野動物園のシャンシャンが中国に返還されました。続いて22日には和歌山県アドベンチャーワールドの<sup>エイメイ</sup>永明、<sup>オウレン</sup>桜浜、<sup>トウリン</sup>桃浜が中国へ。中国との協定で約束した日がきたからです。

この時季は別れと出会いの季節。シャンシャンという名前は「花開くように育てほしい」という願いが込められています。桜の花言葉は「精神の美」～アメリカの初代大統領ジョージ・ワシントンが子どものころ、桜の木を切ってしまったことを父に正直に話をして褒められたという伝説にも由来しているようです。マスク生活は子どもたちが表情を読み取る機会を減らしましたが、皆さんが心を込めて誠実にかかわってきた思いはしっかり伝わっています。

卒園、卒業、転勤、…お別れは悲しいけれど、日々は記憶に残ります。そしてまた次の出会いや出発につながっていきます。

おてんばで木から落下することもあったシャンシャンがお母さんになる日も楽しみです。

